



活動報告

2/3 東京医科大学男女共同参画促進セミナー

内閣府より、女性で初めて民間から起用された内閣府大臣官房審議官 華房実保(はなふさ みほ)氏をお迎えし、「ダイバーシティ社会の構築に動き出す」についてご講演いただき、女性が活躍できる組織づくりを目指していくことの大切さを共有しました。

開会挨拶では臼井理事長がダイバーシティを理解し、女性の活躍支援を継続して行っていくこと、閉会挨拶では鈴木学長ご自身がイクボスを目指して行動を起こしていくことなどを話されました。

男女を問わず、誰もが活躍しやすい組織となるよう、支援センターも活動を続けていきます。



交流会“リエゾンカフェ”開催

月に一度、女性研究者の交流を目的とした“リエゾンカフェ”を開催しています。所属教室を超えたネットワークが生まれてきています。

- ・1/20「東京医科大学の育児支援～保育、ファミリーサポートなど利用案内Q&A」：当センター内交流広場
ファシリテーター 古屋 奈穂子先生
(医師・学生・研究者支援センター育児支援WGリーダー・血液内科 病院助教)
- ・2/16「医師・学生・研究者支援センターの活動を紹介しますー楽しく働き、研究するためにどんなサポートが必要ですかー」：八王子医療センター
ファシリテーター 荻野 令子氏(医師・学生・研究者支援センター コーディネーター)
- ・3/17 交流会「女性が活躍できる東京医科大学を目指して」：大学キャンパス
ファシリテーター 天野 栄子先生(医師・学生・研究者支援センター /免疫学分野 兼任講師)



女性医師・研究者セルフマネジメント研修の実施

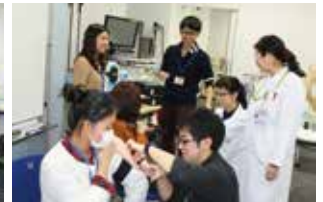


1/14 第3回女性医師・研究者のためのセルフマネジメント研修(キャリアデザイン)
荻野 令子氏(医師・学生・研究者支援センター コーディネーター)

1/21 第4回女性医師・研究者のためのセルフマネジメント研修(タイムマネジメント)
大野 任美先生(公益財団法人21世紀職業財団 客員講師)

2/6 医師・医学生対象 基本のおさらいシミュレーション

大学病院シミュレーションセンターの協力で、医師・医学生を対象とし、シミュレーション研修と医療機器体験・手技練習などを行うタスクトレーニングを開催しました。手技練習では皮下注射・筋肉注射・採血の技術トレーニングを行い、症例対応シミュレーションや読影について講義を行いました。



「東京医科大学が変わる！ 女性研究者ロールモデル&イクボスロールモデル」集発行

3/8 ワーク・ライフバランス推進講演「共働き夫婦が歩んだワークライフシナジー」：大学病院 臨床講堂

藤巻 わかえ先生(女子栄養大学栄養学部 教授)／藤巻 高光先生(埼玉医科大学病院脳神経外科 教授)

東京医科大学は平成28年度以降も女性研究者研究活動支援事業を継続します！

平成25年度に採択を受けた文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」も平成27年度で終了します。

この間、支援センターでは学長、センター長はじめ室員、オブザーバー総勢64名で事業目標の達成に向け女性研究者支援を推進してきました。

毎年実施してきました「研究者とワーク・ライフ・バランスに関するアンケート調査」や本事業シンポジウムの感想などからも本学の男女共同参画の取組が進んでいると感じる教員が増加しています。

また、医師・学生・研究者支援センターで取組んでいるそれぞれの事業について「必要」、「ある方が良い」と回答する者が増加し、15事業平均で72%(H26)⇒81%(H27)と継続を望む教員が増加しています。

こうした取組の評価を得て、平成28年も継続して女性研究者支援を実施することが決まりました。

本学の構成員全てにとって働きやすい、また活躍できる組織となるよう、今後も活動を推進していきます。

5つの事業目標を全て継続します

◆事業目標1 女性研究者に対する支援体制

全学的な組織への検討 / 相談窓口機能充実の整備 / メンター制度 / メールマガジンの配信 / 交流会の開催 / SNS等を用いた女性研究者支援の情報提供

◆事業目標2 柔軟な勤務体制

短時間正規雇用制度の運用、制度の見直し / 保育環境整備 / ファミリーサポート事業の継続

◆事業目標3 研究活動補助者の配置、雇用計画の策定

ライフイベント研究サポート事業の開始、運用

◆事業目標4 女性研究者の採用人数及び上位職女性研究者を増加させる取組

フォローアップ助成金女性研究者枠 / 女性教員上位職内部昇任の啓発 / 臨床と基礎医学との共同研究コーディネート / 女性研究者研究力アップ研修

◆事業目標5 研究者を対象とした意識啓発のための活動

ホームページの更新、センターニュースの発行、女性研究者の裾野拡大

平成28年度は男性を含めた全ての研究者支援を行っていきます。

本学は医学部単科大学であり、研究力を挙げていくことは組織の生命線です。診療、教育、研究の3活動を求められる厳しい環境にあるので研究の継続支援は重要です。メンターシステムの導入により、トランスレーショナルリサーチを推進したことは何より大きな成果で、本学での特徴的な取組として研究活動支援を今後も一層力を入れていきます。また、女性研究者自身も本事業による支援をきっかけに本学の建学の精神である“自主自学”をもって、自立していくことを期待しています。

女性研究者支援はまだ始まったばかりで、今後も取組む課題は多いです。来年度も本学の予算で事業は継続することが決まっており、5つの事業目標全てを男性を含めた全研究者を対象に推進します。さらに、男性を含めた働き方を変えていくことにも取組みます。支援を受けた女性研究者が当センターの室員やオブザーバーとなって参加しており、研究者支援を推進する者は拡大しています。

東京医科大学同窓会や東京医科大学医師会へも医師や研究者の支援、特に育児支援のバックアップにご協力いただき、“オール東医”で支援を継続する体制を構築していきます。

医師・学生・研究者支援センター センター長 大久保ゆかり



📞 問合せ先：事務局 03-3342-6111 (代) 内線 2044,2047 ✉ E-mail : ishi-s@tokyo-med.ac.jp

▶ <http://www.tmu-shien.com/>

医師・学生・研究者支援センター

🔍 検索

Facebook始めました・・・<http://www.facebook.com/676475495751142>

